

令和5年度第1回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 令和5年4月19日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 小会議室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)
大西 秀典(岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 教授)
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長)
大野 元(岐阜県産婦人科医会 理事)
石山 俊次(石山泌尿器科皮膚科)

オブザーバー: 市原 拓(岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長)

事務局 : 居波 由紀子(感染症対策推進課 感染症対策監)
八代 英彦(感染症対策推進課 管理監)
可知 正行(感染症対策推進課 主任技師)
今尾 幸穂(保健環境研究所 疫学情報部長)
岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)

4 議 題 (進行:加藤委員、STI:石山委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) その他(感染症対策推進課から)

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○5月8日以降の新型コロナウイルス感染症の報告について
(事務局から)

- ・同日以降、同感染症は定点報告となり、データの公表は、他の定点把握対象感染症と同様に感染症情報センターの感染症発生動向調査週報により県民に対して行います。その他、国と県医師会のリアルタイム感染症サーベイランスシステムによる公表があります。また、同感染症の評価については、引き続き岐阜県感染症対策専門家会議にて行われます。

(委員から)

- ・定点報告は感染者数の推移を把握するのに適していると思うが、警報等を発出するための流行指標として用いるにはさらに検討が必要ではないだろうか。

- ・ 今後は症状があっても受診しない、あるいは受診しても検査を受けない人が増え、市中での流行拡大の程度と報告数が乖離する可能性も考えられる。

○梅毒の増加傾向について

- ・ 昨年、岐阜県の患者報告数は過去最高となりましたが、本年はそれを上回るスピードで増加しており、このままいくと過去最高の報告数となることが予想されます。
(委員から)
- ・ 具体的な対策を考えていかないと、この増加傾向は収まらないのではないだろうか。同感染症への対策を効果的に啓発する広報の手段を考える必要があると思う。